

ミュージアム・インクルージョン・プロジェクト訪問記録

兵庫県立歴史博物館	
カテゴリー： 博物館	
所 在 地： 姫路市	
調 査 隊：姫路地区手をつなぐ育成会 (訪問日：2023.11.22)	
障 害 種 別： 知的障害	
プロジェクト参加への動機： ・2022 年博物館法の改正により博物館の定義がすべての人に向けたものであることを目指すようになった。そのなかで障害を持つ人にどのように対応するのか、という取り組みを始めた ・「兵庫県立歴史博物館の使命と目標」の中で、「人と未来とのかけはし」として、年齢や性別、使用言語の違い、障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しむことが出来る交流の場となることを目指しているため。	
PR したいところ： ・1 階はすべて無料エリアとなっている ・1 階「みんなの家」では、さわれる資料や昔の遊びを体験できる展示室となっている	
特別な配慮を必要とする人(高齢者・障害者・外国人など)向けのプログラム・配布物がありますか？ ・「みんなの家」コーナーでは触ることができる展示物がある ・プレミアム芸術デーにおいて ・手話付き案内 ・静かに観覧できなくても安心な日 を開催した ・博物館の催しとして、手話通訳・要約筆記付きイベントや誰でも参加できるやさしいイベントを実施している	
障害者への対応をしていることはありますか？ ・事前に連絡をもらえていれば、案内をしたり、触れるものを準備するなどしている ・受付において「耳マーク」を設置し、筆記や指さしでの対応ができる体制となっている。 ・特別な対応が必要な場合、事前に連絡をいただいた上で、休憩用の部屋を確保・提供している。	

障害のある人が来館されて、困ったこと／どうしていいかわからなかったことはありますか？

- ・介助者同伴であることが多いため、事前に用意しておくべきものなどを相談できたため、円滑に対応できている状況である。

調査報告

よかった点

- ・「みんなの家」で実際に馬に乗ることができた
- ・(特別展)クイズ形式だったので、親子で楽しむことができた。シールプレゼントも嬉しい
- ・「こどもはくぶつかん」の展示が懐かしいおもちゃを見たり、体験できる遊びが楽しかった
- ・大きなガラス窓から姫路城をゆっくりと座ってみることができるのがとてもよかった
- ・城の模型コーナーでは全国のお城が展示されていて、姫路城の大きさを知ることができた。
- ・「祭」のコーナーの映像がとても楽しそうだった

調査隊が「こうすればもっと楽しめる」と感じた点

館としての考えられる対応策→(A)すぐにやれそうなのでやってみよう

(B)色々な内容を精査して中期的に計画しよう

(C)長期的に検討課題としよう

(D)対応が難しい・できない

プログラム

- ・教えてくれる人がいて、モノづくり(クラフトなど)の体験できるコーナーがあればいいな

→(B)ハンズオンボランティアの活動として今後実施に向け検討していきたい。

- ・クイズ形式のものが楽しかったので、もっとたくさんあれば興味を持って見るができる

→(B)常設展示におけるワークシートをPRするほか、展覧会でのクイズコーナーの導入も視野にいれる。

- ・障害者対象のワークショップがあれば、より楽しめる場所になると思う(発掘体験、ものづくり、昔の着物や食べ物に触れたり体験できるなど)

→(A)令和6年度より誰でも参加できるやさしいイベント「ユニバーサルイベント」を実施予定。

展示

- ・「みんなの家」での昔遊びの種類がもっとたくさんあるといいな

→(C)新しいクラフトなど制作にかかる予算面を考慮した検討が必要なため長期的課題とする。

- ・説明文が絵(イラスト)などであればわかりやすいと思う

→(A)できるところからイラスト入り解説やさしい日本語での解説を導入していきたい。

- ・昔の道具の展示で一部イラストでどのように使うか説明されていてわかりやすかった。イラストや漫画での説明がもっと増えると楽しいと思う

→(A)できるところからイラスト入り解説やさしい日本語での解説を導入していきたい。

- ・自由に触ったり、体験できるコーナーがもっとたくさんあるといいな

→(C)作品保護の観点もあるため、触れる資料と触れない資料を1つの展示室に展示しづらい。

体験型展示をしている「みんなの家」にて、より多くのさわれる資料を展示できるよう検討していきたい。

- ・触っていいもの、ダメなものの表示がわかりにくいので対応が難しかった。絵マークなどで触っていい、ダメの表示があれば安心できる(文字だけだと読めない人もいるので)

→(B)館内で統一したほうが伝わりやすいとの意見をふまえて見直しについて検討する。

- ・展示コーナーの説明がもう少し、わかりやすく簡単なせつめいだともっと楽しめる

→(A)できるところからイラスト入り解説ややさしい日本語での解説を導入していきたい。

施設

- ・「みんなの家」の馬の階段に手すりがあったら安心できる

→(C)工事が必要になるため、すぐの対応は難しいが、安全面として必要であるため検討事項とする。

受け入れ体制

- ・スマホアプリを使用することで楽しめるものがたくさんあったが、スマホの扱いに慣れていないと難しい人もいると思う。サポートしてくれる人か簡単な手順書が欲しい

→(A)ハンズオンボランティアやご案内ボランティアが取り扱いのサポートをしてくれている。

- ・質問したいことがあったようなので、それに応えてくださる方や質問コーナーがあればもっと楽しいと思う

→(A)質問やご意見を頂戴できるような(常設の)アンケートの設置を行なう予定。

- ・障害のある人用の優しい言葉で書かれたわかりやすいパンフレットが欲しい

→(B)イラスト入り解説ややさしい日本語でのパンフレットを設置していきたい。

- ・有料ゾーンのなかで飲食禁止だということに入ってしまったから看板に気付いた。入る前に看板があればそのつもりで入れる。(入ってしまったからダメだとわかると我慢させたりするのに苦労する)

→(A)看板の設置場所を変更する。また、ゲートの出入りはチケットがあれば自由であることを示す。

- ・疲れた時、パニックになりそうなどのクールダウンできる場所があるといいな

→(B)部屋の使い方などを検討し、カームダウンスペースの確保に努める。

その他

- ・オーストラリアでは美術館が無料だった。日本でも無料なら敷居が低いと思う

→(A)1階はすべて無料スペースとなっている。

.

★プロジェクトに参加して

調査隊の感想

- ・軽度知的障害の方だったので何にでも興味があり、学びたいとの思いをお持ちで、とても興味を持って見学されていました。
- ・障害のある人や支援者と博物館が意見交流したり相談しあえる関係づくりができればもっと身近な場所になると思う。
- ・事前にトイレの場所や飲食可能エリアなどについて調べていたら、無用なパニックなどを起こさずに見ることができる。下見は大切だと思った

施設の感想(気づきや発見)

- 今後、他の障害も含めての取り組みを検討している。
- ・【聴覚障害者向け】講演会やガイドのイベントでの手話通訳・要約筆記の導入を検討
- ・【視覚障害者向け】触ることのできる資料(仏像レプリカ等)の拡充
- ・【車椅子ユーザー向け】展示室内の動線の確保
- ・特別支援学校との連携

- ・今後、複数名の当事者の方に来館してもらい意見を聞きたい
- ・調査隊訪問時にどのような案内が必要か、見学時間はどのくらいかなどを事前に打ち合わせしておくとい